

# だいこん(秋播き秋冬収穫)

## 品種

**快進2号(武蔵野)**：早太りで、肌がきれいな総太大根。ウイルス、ベト、軟腐、萎黄病に強く、耐暑性があり、播種後55～60日で収穫できます。芯が黒くなる「ス入り」が遅く、空洞の発生も少ない。

**夏つかさ(トーホク)**：耐暑性があり萎黄病、ウイルス病、生理障害に強く、晩春から播種できる早太りの青首総太り大根。播種後55日頃から収穫可能で尻づまりが良い。



## 作型の例 (◆は種 ●は収穫)

| 月<br>作型 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---------|----|----|----|-----|-----|-----|
| 秋冬収穫    |    | ◆  | ◆  | ●   | ●   |     |

## 管理

### 耕起

ゆっくりと丁寧に2～3回耕起し、目の細かい柔らかな土にします。

### 畠立て

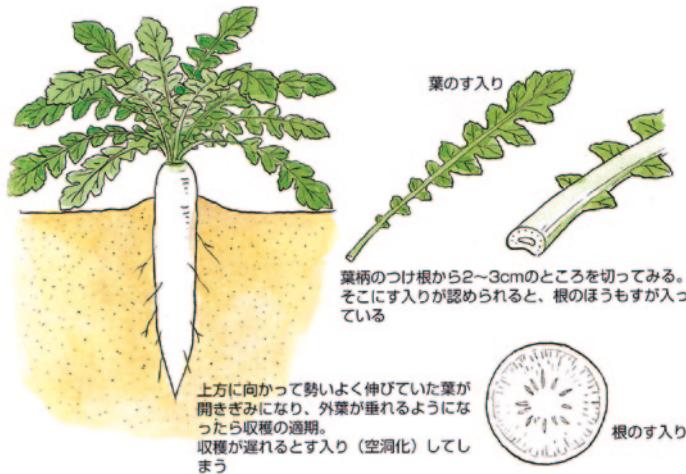
基肥を施用し、畠立てを行い、畠幅は120cmとし水田後などは特に高畠(25～30cm目標)とします。播種の10日前までに石灰資材を施用し、排水溝も予め作っておきます。

### 播種

8月中旬～9月中旬

### 間引き

1回目は本葉2～3枚のころに、2回目は本葉5～6枚のころに行い、最終的に株間30cmの1本立てとなるようにしましょう。



### 施肥例

| 肥料の種類      | 基肥 | 追肥 |
|------------|----|----|
| 苦土石灰       | 10 |    |
| 硝加磷安333    | 12 |    |
| やさい磷加安S540 |    | 4  |

### 追肥

間引き終了後、播種後20～25日頃に追肥を行いますが、多量の追肥は、病害の発生を助長するとともに、葉の生育が旺盛となり曲がりにつながるので注意します。

### 収穫

播種後55～65日頃で根径6～7cm程度に生育したころ。収穫が遅れるとス入り等の品質の低下につながるので注意しましょう。

## 栽培の特徴とポイント

この作型は、生育適温に最もあったつくりやすい作型ですが、早まきする場合、病害虫や生理障害が発生し、品質低下につながるので注意しましょう。また、肌の良し悪しが品質を大きく左右するので、土が細かく、排水が良い場所を選択し、深耕や排水対策を積極的に行ってください。